

歴文5月・一泊旅行研修会 古代吉備の歴史探訪の旅

坂東 久平

5月22日、朝8時、五月晴れ。歴文恒例の一泊研修の参加者は26名、定刻に西大寺駅前を出発しました。旅のテーマは、弥生時代後期から古墳時代に、ヤマト王権と並び強大な勢力を誇った「吉備王国」の探訪です。

車中では、さっそく古川さんの解説が始まります。吉備は、現在の岡山県と広島県の東部に当たる地域を指し、奈良時代に備前・備中・備後・美作の4国に分かれた。温順な気候、地勢に恵まれ、弥生時代から古墳時代にかけて大発展を遂げ、ヤマト王権に次ぐ一大勢力を形成します。しかし5世紀の後半に日本統一を果たした雄略天皇との争いに敗退して衰退します。

次いで、中井世話人から吉備の繁栄を支えた産業、製鉄や製塩、海運についての解説。さらに古墳の見方について坂東世話人の解説。吉備の弥生式墳丘墓から箸墓古墳などの前方後円墳に変遷する過程について、詳しい説明がありました。

新しい試みとして、ノートパソコンからバスのディスプレイに、39枚の写真・図表を映しながら説明をしましたが好評でした。(藤田秀憲さんの技術で実現しました。ありがとうございました)

11時、赤穂大石神社に到着。

神社は家老大石の屋敷跡で、忠臣蔵の舞台となった「長屋門」(国の史跡)などを拝観しました。



昼食後、地元ガイドの岡田さんに合流。吉備津神社は備中一宮で、大吉備津彦命おおきびつひこのみことを祀る。本殿、拝殿は共に国宝。398mの長さの回廊は岡山県指定文化財。ガイドさんが声を潜めた御釜殿の「鳴釜神事」の語りは、中々の迫力でした。

次に案内されたのは、弥生後期の「楯築墳丘墓たてつきふんきゅうぼ」。巨石がストーンサークルのように配置されている。墓の上に置かれていた「弧帯文石こたいもんせき」は、ご神体にされて宝蔵庫ののぞき窓から見る事ができた。

総社市文化財学習の館では、館長の平井さんから1時間にわたり案内を受けた。特に、特殊器台の変遷、製鉄の「千引カナクロ谷遺跡せんびき」の模型や鬼ノ城の模型などなどたくさんの展示があり、たいへん勉強になりました。

お楽しみの訪問先は、地元酒蔵「三宅酒造」です。資料館で日本酒の製造法についての説明を受けた後、清酒「Fresh Origin」をほんの少しだけ試飲しましたがワインのようなおいしい酒でした。

宿舎の「ピュアリティまきび」に到着。宴会の余興「桃太郎」は、青木ディレクターの下、主演桃太郎(塩本)、語り部(古川他)、猿・犬・雉や鬼たちなどの掛け合いが愉快で、盛り上がりました。



2日目は雨。8時出発。

ガイドの加藤さんの案内で造山古墳つくりやまこふんに登る。築造時(5世紀初)には、日本最大とされる大きさを実感する。次いでコウモリ塚古墳へ。石舞台古墳に匹敵する大きさに驚く。備中国分寺を拝観し、「ラフォーレ吹屋」で昼食、ベンガラベンガラの里へ。

ベンガラで財をなした豪商たちが都市計画した「吹屋の町並み」を駆け足で見て、「ベンガラ館」へ、西谷世話人の車中講義で勉強していたので、製造工程がよく理解できました。

45分の遅れで、帰途につく。「もちむぎの館」で買い物をし、運転手の頑張りのおかげで、予定通りの時間に西大寺駅到着。充実の2日間でした。来年もまたよろしくお願ひします。